

# 第16回マチング・バトン・バトワークリング岡山県大会 審査規定 ～バトン・カラーガードの音部～

## 1. バトン部門審査内容

### (1) 作品完成度

①実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドロップやミスのない到達度の高い、完成された作品</li> <li>・個々の責任意識が高く、グループプレーや協調性の高い演技</li> <li>・グループとしての同調性</li> <li>・正確なポジションワークと困難度あるステージングの展開</li> <li>・リズムやタイミングの統一性、多様性</li> </ul>
②表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品のテーマを主張した、視聴覚の調和された表現</li> <li>・フロア、立体、空間によるステージングデザイン</li> <li>・ユニゾンやアンサンブル、ハーモニーのバランス</li> <li>・観客への作品アピールやショーマンシップ</li> <li>・プロジェクションや自信ある演技、リカバリー能力</li> </ul>

### (2) 全体的効果

①作品効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明確なテーマとプログラムコンセプト</li> <li>・集団美が活かされた作品</li> <li>・創造的で独創的な多様性あるプログラム構成</li> <li>・視覚と聴覚の一体性</li> <li>・衣装やプロップの色彩、デザインと作品との調和</li> </ul>
②演技効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の理解、解釈</li> <li>・音楽の理解、解釈</li> <li>・バトンとボディーワークによるデザイン</li> <li>・フロア、立体、空間によるデザイン</li> <li>・ポジションや方向、高低、遠近感によるフロアワーク</li> <li>・ミュージカリティ、観客への作品アピールやコミュニケーション</li> </ul>

### (3) パフォーマンス

①バトン トワーリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バトンテクニックの正確さ、優秀さ</li> <li>・グループスタイルやリズム、タイミングの統一性</li> <li>・トワーリングの多様性、困難度</li> <li>・エフェクティブなバトンの使い方</li> <li>・集団演技の複雑性</li> <li>・トワーリングリズムと音楽リズムの調和</li> <li>・バトンとボディーワークやステージングの困難度ある組み合わせ</li> </ul>
②ボディーワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボディーワークの正確さ、優秀さ</li> <li>・グループスタイルやリズム、タイミングの統一性</li> <li>・ボディーワークの多様性、困難度</li> <li>・エフェクティブな動きやアングル</li> <li>・集団演技の複雑性</li> <li>・ダンスリズムと音楽リズムの調和</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボディーワークとバトンやステージングの 困難度ある組み合わせ</li> </ul>
③ステージング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ムーブメントの正確さ</li> <li>・グループスタイルやリズム、タイミングの統一性</li> <li>・スムーズで困難度あるフォーメーションの展開</li> <li>・ポジションや方向、高低、遠近感によるフロアワーク</li> <li>・フロアと立体、空間のステージングデザイン</li> <li>・フロアデザインと音楽の調和</li> <li>・ステージングとバトンやボディーワークの 困難度ある組み合わせ</li> </ul>

審査担当者と観点、持ち点(予定)

稲田麻衣子先生 作品完成度 10点 全体的効果 10点 パフォーマンス 15点

樋口 安芸先生 全体的効果 10点

## 2. バトン コンテストの部の審査(予定)

- (1) タイムオーバーによる失格はないが、大会運営に協力すること。
- (2) 各内容の5つの観点についてA～Eの5段階評価をし、  
Aが5点・Bが4点・Cが3点・Dが2点・Eが1点に  
換算し、その合計点を集計する。その後45点満点を100点満  
点に換算する(20/9倍して、小数点以下四捨五入の整数値)
- (3) 100点満点中、80点以上を金賞、79点～60点を銀賞、  
59点以下を銅賞とする。
- (4) 同一カテゴリーに2団体以上のエントリーがある場合、  
審査員特別賞(名称は今年度再検討)を授与。

## 3. バトン フェスティバルの部の審査

- (1) タイムオーバーによる失格はないが、申告時間を遵守すること。
- (2) 審査方法は、コンテストの部に準ずる。(評価あり、点数なし)
- (3) 各部門で3団体以上のエントリーがある場合、最も観客を魅了し  
たと判断された団体はフェスティバル賞を授与する。

※すべての部門でICレコーダ審査を行う。

#### 4. カラーガード部門講評内容

##### (1) 全体的効果とアンサンブル (篠原 修先生)

①全体的効果 …作品の効果と解釈・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚と音楽の調和</li> <li>・表現の幅と質</li> <li>・コーディネーション</li> <li>・独創性と多様性</li> <li>・ショーマンシップ</li> <li>・完成度</li> </ul>
②アンサンブル …構成・演技の質と技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統一性</li> <li>・視覚的音楽性 (フレージング、解釈、強調)</li> <li>・同一性</li> <li>・リカバリー</li> <li>・表現慮</li> <li>・全体的技術</li> <li>・アーティキュレーション</li> <li>・多様性</li> <li>・鮮明度</li> </ul>

##### (2) ボディーワーク (稲田麻衣子先生)

①表現形式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バラエティー</li> <li>・コンビネーション</li> <li>・ダイナミックス</li> <li>・適正</li> </ul>
②理解度と達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーニング</li> <li>・ポジション</li> <li>・リカバリー</li> <li>・コントロール</li> <li>・融合</li> <li>・タイミング</li> </ul>

##### (3) カラーガードの技術 (樋口 亜紀先生)

①表現形式 …手具の動作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バラエティー</li> <li>・コンビネーション</li> <li>・ダイナミックス</li> <li>・適正</li> </ul>
②理解度と達成度 …手具の操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーニング</li> <li>・融合</li> <li>・リカバリー</li> <li>・コントロール</li> <li>・タイミング</li> </ul>

#### 5. カラーガード部門の講評内容

- (1) タイムオーバーによる失格はないが、大会運営に協力すること。
- (2) すべての団体に優秀賞を授与する。
- (3) 各部門で3団体以上のエントリーがある場合、最も観客を魅了したと判断された団体はフェスティバル賞を授与する。

※ICレコーダ講評を行う。